



No	発表者	テーマ	R7.8発表内容		その後の活動及び現況
			概要	今後取り組みたいこと等	
1	大学生	「押し」に着目した若年層の献血の促進	若年層の献血参加率は減少傾向にある。押し活をしている若者は多いため、押し活と献血を絡めることができれば、若年層の献血促進に繋げていけるのではないかと考えている。	看護領域実習を通じて医療に関わる現場の実態を知り、来年度の活動について検討したい。看護知識を深め、若年層の献血促進に繋がる発信をSNSで行いたい。	献血への理解を広げる模擬献血への参加を継続した。看護実習で医療現場についての理解も深めることができ、今後はより一層、看護知識を生かした活動を展開していきたいと考えている。
2	高校生	「私メダリスト化計画」～今自立に必要な力～	大人になるとできないといけないことがある。学校だけでは学べない料理やメイク、プレゼンテーション力について、若者が学べる場をつくりたい。そして、自分に自信を持ち、みんなが自分にメダルをあげられるようになってほしい。	それぞれのスキルを仕事にしている大人を講師に招き、長期休み期間中に、中高生を対象とした講座を開催したい。講座開催に当たり、行政には、実施場所の紹介などの協力をしてほしい。	子ども・若者応援補助金を活用した講座の開催を計画していたが、学業や部活動で多忙であったことから、現在は今回のテーマに関する活動は一旦休止している。



No	発表者	テーマ	R7.8発表内容		その後の活動及び現況
			概要	今後取り組みたいこと等	
3	大卒者	じゆう器 ー街にスキを作り出す 什の企てー	街を自分らしく使い倒す精神性と、あらゆる振る舞いを許容する街のスキにより、尼崎らしい光景が生まれている。 近年、都市開発が進むなか、街のスキがなくなりつつあり、街に小さなスキを作り出していきたい。	尼崎という大都市のなかに、様々なスキを作り出し、できることなら行政と一緒に、スキに溢れる尼崎を目指していきたい。	8月の発表以降、尼崎を離れて建築や都市計画に関する見識を深めることを優先した。今後も、然るべきタイミングで、建築的手法を用いて街にスキを作り出す取り組みを行っていきたい。
4	高校生	人の前に立つこと	演劇の舞台に立ったことで自分が変わり、また立ち続けたことで周りも変わった。 自分は機会に恵まれたが、若者全員がそうではない。若者がやりたいことを気兼ねなく言葉にできる環境を作りたい。	演劇を通じて、若者が自己発信・表現できる場を作りたい。 現在、若者との出会いや、本物を知るための観劇のハードルの高さについて困っており、行政に助けてほしい。	演劇の舞台に立ち、自分や周りが変わった経験・体験を基にしたドラマ制作について検討している。 今悩んでいる若者に、自身の経験・体験を知ってもらうことで、何かのきっかけになればと考えている。



No	発表者	テーマ	R7.8発表内容		その後の活動及び現況
			概要	今後取り組みたいこと等	
5	高校生(2人)	子どもに時間空間仲間を復活させる	ユース交流センターのような、こどもが中心となり伸び伸びと集まれる場所が尼崎に広がるべきである。今自分たちが興味を持っているニュースポーツを尼崎で実施し、こども同士のネットワークを広げていきたい。	まずは自分たちがニュースポーツ・ジャガーの体験をし、その後、尼崎城址公園などでジャガーをするイベントを実施していきたい。イベント実施に当たり、行政には、学生主催イベントの事例紹介や、尼崎城址公園を貸してほしい。	中央地域課や、あまがさき観光局の協力を得るなか、2月にジャガーの武器制作イベントを、3月に尼崎城址公園でジャガーを行うイベントを実施した。また、これらジャガーのイベントを通じて新たな仲間づくりを行っている。
6	大学生	貧困世帯にもっと大学進学を	定時制高校から頑張って大学へ進学したが、進学に当たってはいくつかハードルがあった。定時制高校の生徒は、あまり大学進学を視野に入れていないため、その選択肢を持てるようにしたい。	所得の格差がなく、誰もが受験というスタートラインに立てる社会をつくるため、行政には、大学受験料の補助制度を創設してほしい。今後、担当課と制度化に向けた協議を進めていきたい。	こども青少年課と大学受験料の補助制度創設についての協議を行った。現在、市担当課において補助制度を実施する場合に必要な財源等について検討を行っている。



No	発表者	テーマ	R7.8発表内容		その後の活動及び現況
			概要	今後取り組みたいこと等	
7	高校生	すべての青少年が未来への希望を持ち続けられるために	<p>学校生活や、大人からの抑圧により、自己開示が苦手であったが、ユースセンターに出会い、自分も希望を持って良いのだと思えるようになった。過去の自分と同じような状況の青少年を減らし、安心して子ども時代を過ごせる環境を作りたい。</p>	<p>青少年と大人の両方にアプローチし、バウンダリー・こどもの権利について知り、当たり前を守られる環境にしたい。そして、すべての青少年が自分を肯定することができ、自分のなりたい・ありたい姿を信じ続けられるようにしたい。</p>	<p>バウンダリー・こどもの権利の実践方法について学び、ユース交流センター職員を対象に講座を実施した。また、園田地区のゆるえん祭に出展し、演劇・クイズで学ぶワークショップを実施した。</p>
8	高校生	yowane -ヨワネ-	<p>「死にたい」という言葉に対し、「死なないで」とだけ言うの無責任だ。誰かのことを思うなら、「生きる理由を創る」仕組みを創るべきだろう。誰もが生きていてもいいと思える社会を創りたい。</p>	<p>「弱さは隠すべき」といった価値観がまだ強いなか、弱音を受け入れる文化・価値観を発信していきたい。その弱音を表現や創作に変えていくなか、自己肯定感が育まれ、「生きる理由」が少しずつ生まれていくと考える。</p>	<p>園田カーニバルや琴ノ浦高校文化祭などで弱音を表現した作品の出展や、武庫荘総合高校でのワークショップの実施など、様々な方の協力を得るなか、多数の活動を実施した。</p>